

## 牛白血病清浄化を目標としたモデル農場の取組

京都府中丹家畜保健衛生所

○大谷健太 渡邊昌英

【はじめに】当所では平成 21 年から管内酪農場での牛白血病清浄化に向け、血中の牛白血病ウイルス (BLV) 遺伝子量を指標とした感染防止対策に取り組んでおり、その概要を報告する。【方法】当所は感染防止対策として BLV 陰性牛の分離飼養、吸血昆虫対策、初乳対策、BLV 陽性牛の優先淘汰等を提案、さらにリアルタイム PCR 法を用いた血中 BLV 遺伝子量検査により陽性牛の感染伝播リスクを個体毎に評価し、各農場はその結果を基に感染防止対策に取り組んだ。【結果】A 農場では陽性率が 77%から 45%、B 農場では 89%から 74%まで低下した。A 農場では牛群の更新や育成牛の清浄化の状況等から、取組開始以来 10 年となる 3 年後に清浄化可能と試算した。2 農場を比較すると、A 農場は手間やコストのかかる陰性牛の分離飼養や高リスク牛の優先淘汰を継続しており、これらの対策が BLV 清浄化において重要と推察された。また、大学で牛白血病を学んだ後継者が就農した農場や A 農場を参考として、さらに徹底した対策で「5 年で清浄化」を目標とする農場など、他の農場でも意欲的な取組が始まった。【まとめ】血中 BLV 遺伝子量によるリスク評価を活用しながら感染防止対策を継続してきた A 農場において、陰性牛が半数以上になり、着実に清浄化が進展していることを確認できた。さらに短期間で清浄化を目指す農場もでてきており、地域の BLV 清浄化に向け、今後も継続して取組みたい。